

コメディリリック第4回「この振る舞いを見ろ」

「一人っ子紀行」

登場人物

平沢 野彦

森木 シロスコフ

五十嵐 ペイリー・チャイルド

※平沢、森木、板付き

【L・明転】

平沢 「一人っ子？」

森木 「いや違います」

平沢 「ふたりっ子？」

森木 「ふたりっ子とは言わないんじゃないですか？」

※五十嵐、登場

平沢 「五十嵐さん、一人っ子？」

五十嵐 「一人っ子だよ」

平沢 「だと思った！俺も一人っ子なんすよ」

森木 「どうしたんですか急に」

平沢 「いや、最近、俺、一人っ子だなーって

思ってる」

森木 「はあ」

平沢 「こう、一人っ子だなーってよく思うタ

イミングが多くて」

森木 「あんまりよくわかんないですね」

平沢 「わかりますよね？」

五十嵐 「どうだろうねえ」

森木 「具体的にどういう時なんですか？」

平沢 「例えば、飲み会で注文する時に自分が

頼みたいものだけ頼んじゃう。他の人に

何食べたい？とか聞けないのよ」

森木 「それって、ただ単純に気が利かないだ

けじゃ？」

平沢 「いや、一人っ子だからなのよー」

森木 「はあ」

平沢 「わかりますよね？」

五十嵐 「どうだろ、初めて飲む相手とかだと距

離感が分からずに聞けないみたいなのは

あるかもね」

平沢 「そうそうそう。やっぱ一人っ子だから

ー」

森木 「まあでも、結局みんな好き好きに頼む

ようになっちゃうから、別にいいんじゃない

ですか？」

平沢 「お前みたいに一人っ子に理解のある人

ばかりだったらいんだけどなー」

森木 「別に一人っ子に理解があるわけじゃない

ですよ」

平沢 「で、お酒が進むとついつい言い過ぎちゃうんだよなー一人っ子は」
森木 「それはお酒のせいじゃないんですか？」
平沢 「いや確実に一人っ子のせいなのよー」
森木 「はあ」
平沢 「この前も、会社の飲み会で稲垣ちゃんに言いすぎちゃってさー」
森木 「ああ、聞きましたよ」
平沢 「うそ？なんて言ってた？」
森木 「いや、そんな大したこととは」
平沢 「言って、言って」
森木 「本当に大したことないんで」
平沢 「言って、言ってって」
森木 「しつこいですね」
平沢 「お願い！言って！」
森木 「いや、やっぱ僕が言うのは違うんでやめときます」
平沢 「頼むってお願いって」
森木 「はい。この話終わり」
平沢 「ねえって！言ってって！」
森木 「終わり、終わりです」
平沢 「いいからお願い」
森木 「一回終わりましょ？後で話すんで」

平沢 「わかった。絶対な」
森木 「はいはい。絶対。だから一回終わり」
間
平沢 「やっぱ言ってる」
森木 「しつこ！マジでしつこい！」
平沢 「一人っ子はしつこいんだよー」
森木 「もう稲垣さんに自分で聞いてくださいよ」
平沢 「え？悪口？」
森木 「いや、それは、僕からは言えないですよ」
平沢 「んだよーマジでふざけんよーあのビツチャリマンが」
森木 「口わるっ！」
平沢 「一人っ子は口悪いんだよー！」
森木 「流石にいないとは言え会社の同僚をやめましょうよ」
平沢 「一人っ子は何言ってもいいんだよ！」
五十嵐 「いい加減にしろよ！てめえこら！」
森木 「：そうですよ。稲垣さんに悪いから」
五十嵐 「さっきから一人っ子一人っ子！」
森木 「そっちなか」

五十嵐 「口悪くて空気読めなくて人の気持ちわ

からないみたいなの…冗談じゃねえよ！お前みたいな人間が一人っ子のイメージを悪くした挙句独り歩きさせてんだろが！」

平沢 「いや、だって分かりませんか？」

五十嵐 「わかんねえよ！一人っ子とかじゃなくて、お前の性格だろ？死ぬ。今すぐ。今日死ぬ誰かの代わりにお前が死ぬよマジで」

森木 「いや、五十嵐さん、流石に言い過ぎじや…」

五十嵐 「うるせーな！俺は先輩だから何言ってもいいんだよ！」

平沢 「でも稲垣が俺の陰口言うから」

五十嵐 「上司で陰口言われるお前が悪いんだよこの腐れチンポが。チンコゴミ糞うじ虫野郎。生ごみ男」

森木 「ちよつと口悪いな」

五十嵐 「なんつってたの？稲垣はこいつのこ」と

森木 「いや、僕から言うのはちよつと」

五十嵐 「いいから。ほら」

森木 「せめてご本人がいるところじゃないと」

五十嵐 「いいから。ほら。言えって」

森木 「いやいや」

五十嵐 「言えって。ほら。はい」

森木 「今日はやめときます」

五十嵐 「言って。言えって」

森木 「僕は稲垣さんの後輩ですから」

五十嵐 「大丈夫だから。言えって。はい」

森木 「いやいや」

五十嵐 「言えって」

森木 「いや、しつこいな！」

五十嵐 「お前が言えれば済む話だろ！」

森木 「ここでは済むかもですけど、稲垣さんとか会社のこと含めて考えたら済まない話なんで。本当に勘弁してください」

五十嵐 「裏切るんだな。俺を裏切るってことだな」

森木 「そういうことじゃ」

五十嵐 「そうだろ。大体、何で男のお前が女性社員のそういう話を知ってたんだよ。お前がそういう不純な気持ちで近づいてるかだろ？」

平沢 「(店員呼び) すいません生一っ」

森木 「違いますよ」

五十嵐 「そういうことだよ。会社は友達作る場所じゃねえんだぞ。いい加減にしろよ、てめえ。お前が空気悪くしてるんだからな。マジで。お前なんか仕事だけで考えたらいてもいなくても変わらねえんだからな。調子乗んなよ」

間

五十嵐 「…ごめん、言い過ぎた」

平沢 「そうですよ。今のは言い過ぎですよ」

五十嵐 「お酒進むとついつい言いすぎちゃつて。悪い」

森木 「いや、全然大丈夫です」

平沢 「大丈夫？お水とかもらうか？」

森木 「そうですね…」

五十嵐 「すいませーん！きなこアイス一つ！」

間

五十嵐 「トイレ行ってくるわ」

※五十嵐、はける

平沢 「森木…稲垣なんて？」

森木

「しつこいし、仕事できないし、セクハラしてくるし、マジでキモいから部長に言うんですって！」

平沢

「あの…クソビッチ…」

電話をかける平沢

平沢

「あ、稲垣ちゃん？この前はごめんね。埋め合わせしたいからさーデイズニー一緒に行かない？」

※平沢、はける

森木

「一人っ子嫌い…」

【し・暗転】

—了—